

医学科

School of Medicine

高度な学術能力に豊かな人間性を兼ね備え、
人々から信頼される医師を育む



6年間の学び

1年次	2年次	3年次	4年次	5・6年次
-----	-----	-----	-----	-------

- 医学科は基礎系と臨床系の分野が有機的に関連しつつ教育・診療・研究の体制を整え、6年間の一貫教育を行います。
- 4年次1学期までは基礎医学系、臨床医学系の基礎的知識の修得、実験、実習が主となり、4年次2学期から患者さんを対象とした臨床実習を指導します。
- 6年次の総合試験を経て医師国家試験を受験します。これに合格して初めて医師となりますが、2年間は初期臨床研修が義務づけられています。
- その際、各診療科は他の教育関連病院や地域医療施設と協力して卒業生の研修を指導します。
- 研修後、多くは大学病院や他の病院の臨床医として、さらに研修を重ねます。医学の知識を活かして医系技官等に進む道もあります。
- また、臨床や生命科学、社会医学の発展をめざして研究に取り組む卒業生も多く、そのために大学院博士課程へ進学するのも選択肢のひとつです。

共通教育科目と
専門教育を
並行して学ぶ

共通教育科目と並行して専門教育もスタート。前期は医学概論など医学の基礎知識・最新医学トピックを学びます。早期体験学習を経て後期は、人体構造と機能、神経科学など基礎医学を学びます。

なぜ病気になるのか
メカニズムを
理解する

微生物・免疫学、薬理学などの基礎医学講義・実習を通じ病気が発生するメカニズムを学びます。後期には臓器別・部位別の臨床講義が始まります。医学外国語では論文情報収集・解析法を学びます。

医学全体を
俯瞰できる力を
養う

3年次は臨床医学系講義に加え、離島地域病院実習と12月から基礎教室を中心とした医科学研究に取り組めます。教室で国内外の研究室の紹介を受け、医学研究を深める制度も用意しています。

臨床実習のための
共用試験に挑む

前期は臨床推論、基本的臨床手技を学びます。衛生学・公衆衛生学など医療学総論を受け、臨床実習実施前に標準評価試験として共用試験を実施します。試験合格者は後期より臨床実習に臨みます。

多様な実習を経て
医師国家試験合格
を目指す

各診療科病院実習、内科などプライマリケアを中心にクリニカルクラークシップに臨み、医師業務に近い実習に参加します。総合試験などに合格し卒業見込みとなれば医師国家試験を受験します。

医学科は医学に関する専門の知識と技術を修得すると共に高い倫理性を身につけ、医学・医療の進歩や社会的課題に柔軟に対応できる医師や研究者を育成することを目的としています。加えて、沖縄県の自然的・地理的、および歴史的な特性をふまえ、島嶼環境における地域完結型医療の構築に努めます。また、国際性豊かな医学部・医学科として、アジアを主とする諸外国・地域との学術交流を通じ、国際医療に寄与することもめざします。あわせて入学試験も通常の「前期・後期」の他、「推薦Ⅱ(地域枠)」と「2年次特別編入学(学士入学5名)」の計3種類を実施、多様な個性が切磋琢磨しあう環境を提供しています。

Admission Policy - 求める人材像 -

【一般入試】

- 地域医療に貢献するための県民・地域住民意識を持てる人。
- 生命現象や国内外の医学・医療に強い関心がある人。
- 責任感が強く、人の身になって考え、行動できる人。
- 常に自己点検を行い、自己啓発ができる人。
- 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶことができる人。
- 創造性に富み、物事を理論的に整理・展開できる人。
- 医学を学ぶ基礎学力を有する人。

【推薦入試Ⅱ(地域枠)】

- 沖縄県の地域医療に貢献するための県民・地域住民意識を持てる人。
- 生命現象や国内外の医学・医療に強い関心がある人。
- 自分の置かれた社会的・地域的立場をしっかりと意識できる人。
- 学習意欲の維持並びに自己学習ができる人。
- 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶことができる人。